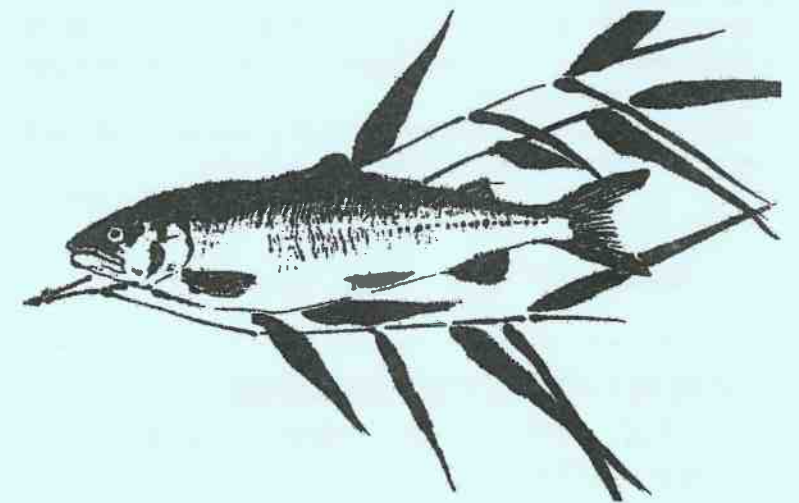


ふれあい雪谷

平成17年

あさがお号



(上池上 綱嶋 滋さんの作品)

母校の思い出 22 戦争を挟んで幼い時から小学校までの思い出

私の生まれは、昭和14年日本橋茅場町。2年後には太平洋戦争が始まったと言っても、こどもにはその気配は分からなかった。が、父が国民服にゲートル姿で徴用に行き、南方の戦地から叔父が土産に持ってきてくれた青い小さいバナナ。家の中に掘った防空壕。空襲警報のサイレン。昭和20年の東京空襲の前年の暮れ、初めてのB29の爆撃で我が家は全焼した。同じように被災した人々が東京から逃げる列車は、連結器にまでしがみ付く程のパンク状態。乗り降りは窓からだった。疎開先で聞いた玉音放送は雑音だけで何も聞き取れなかった。



昭和21年、父は大工、左官屋さん、賄いの食糧、建材等を福井から運び、あらかた出来上がったとき私たちを呼び寄せた。駅から家までの道の両側は焼夷弾、焼焦げたトタン、熱で溶けたガラス等の山。家はまばらで、駅のホームに立つ人の姿も見える。

小池小学校には1年生の2学期に転入。がたがた道の中原街道は馬車がたくさん通り、その馬糞は野菜作りの肥料にと持って行く。そこを横切って、赤松小学校の間借り校舎に通う。

昭和22年、小池小学校新校舎再建。倒れたままの門柱のタイルの「国民」の文字を先生が削り取っていた。救援物資の脱脂粉乳の給食は余りのまずさにこっそりトイレに捨てに行くと、既にミルクで真白。

楽しみは夏休みの虫の会。私はあの虫の臭いが苦手だが、虫探し名人、はなたれ小僧はリレーの名手、絵の名人、勉強は苦手でも皆何か特技を持っているおおらか学校生活だった。林間学校にやっと親に買ってもらった高価な高価な1本50円のバナナ。大事にしまい過ぎてリュックを開けたら腐っていた苦い思い出。親たちの苦労の何分の一でも、耐える事を経験したことは私にとって幸せだったと痛感している。

(池の台 野邊 晴子)

「編集後記」

出張所を母体に地域活性化の一役を担って、わがまち大田雪谷地区推進委員会があり、ふれあい雪谷編集委員会があります。三カ月に一回「ふれあい雪谷」を五千五百部発行しています。

雪谷の素晴らしさ、問題などの提起大歓迎です。投稿は出張所、編集委員のどちらでも結構です。千里の道も一歩から、まずは私たちの地域を良いコミュニティにしたいものです。

(東雪 松尾 勝子)

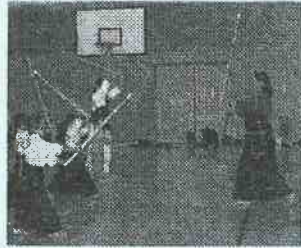
【発行】わがまち大田雪谷地区推進委員会
【編集】ふれあい雪谷編集委員会
【連絡先】雪谷特別出張所
大田区東雪谷四一三二一三
電話 三三二九一五二一七
【発行日】平成十七年七月一日
通巻第五十九号

ホームページ

<http://www.city.ota.tokyo.jp/nishi/yukigaya/index.htm>

サークル紹介 28 小池剣道部

小池剣道部は昭和三十七年、地域の青少年の健全な育成を目的に掲げ、心・気・技の向上を図り礼儀を重んじる、人間形成を目指して、故剣道範士九段岸川辰次(享年九一歳)が、地元有志および小池自治会の応援を得て創立し、本年四三周年を迎え今日に至っております。



秋には各都府県待望の剣道練成大会を催し、日頃の鍛錬の技を競い合います。近隣の剣道部との他流試合並びに創設者の功績を称えた「岸川杯」の争奪戦等も行い、表彰も致します。

毎週水曜・土曜日午後七時より小池小学校体育館にて剣道の稽古をしておりますので是非見学にいらしてください。

(小池 岸川 知子)

私の健康法 ② 私の生き方

医学の進歩、各自の健康に対する意識の向上で、今や日本は世界一の長寿国となった。ありあまる程の情報に振り廻されがちだが、私は右から左へ流している。

朝は昇る陽を拝し、夕は富士山を眺め、夕暮れに一番星を見つめ、月をみて過去を追想する。今の季節、新芽の香りを楽しみ、小鳥の鳴声に耳を傾け五感の衰えをくい止めている。

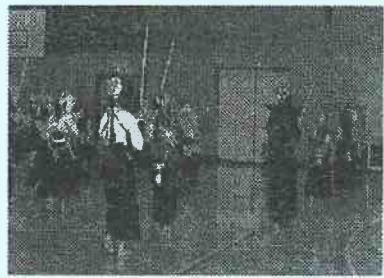
「メンドクサイ」は禁句、床の上げ下げ、拭き掃除、ご飯は鍋で火加減・時間を気にしつつ、洗濯機は二槽式、食器も手洗い、蛇口もあえてひねり式。もちろん車がないので歩く。一直線上を背筋を伸ばし、腹筋

を意識し、早足で少しでも背が高くみえる様に歩く。表情にも気をつけまゆの間を上げ、口角を上げ、モナリザの微笑にならっているつもりでいる。

(東中 H.O.)



神社を後に元気よくマラソンで小池小学校に戻り、先生・保護者と共に楽しい、鏡開き・お汁粉会を開きます。



題目講と私

7月は盆月、先祖が各家へ帰るといわれています。わたしは日下山に（南雪谷）に生まれて今年で84歳になります。

子供の頃は道も狭く大正の終り頃に耕地整理により、日下山村も荷車1台やっと通れる道幅が現在の広さになりました。私の生まれた家の庭のまん中を、昭和の初め池上線が通りました。

それまで曲りくねっていた呑川も、まっすぐに改修されました。そして両岸には雪谷村の青年団員が桜の木を植えました。この桜の木は、池上線の社長の寄付したものでした。

日下山村は江戸時代から十数軒の農家が助け合い、仲良く生きてきました。その中でテレビ、ラジオの娯楽のない時代に農家の若者は、正月かお盆しか休みはなく天候の悪く農作業の出来ないときは、八幡神社などに集まって長老の話を聞き情報交換の場ともなりました。

そして春と秋の彼岸の日は各家が順番で当番となって、先祖供養を行いました。

これは日下山題目講といわれ寛政年間から約200年も続けられてきました。その都度和紙に出席者、開催された家、日時などが記入されて和紙の厚さは数十センチになりました。最も古い時期は名前のみで姓はなく何工門、何吉など記されておりました。村の長老が皆の先頭に座って、その後に各家から1名ずつ来た者が座って拍子木を打ち、約2時間位読経をしました。約1,000回といわれた経文は数珠により計測されました。

この行事は戦中も続けられて昨年後継者がなくなり中止されるまで、約200年間続けられました。

私も祖先の霊に経を唱えることの快さを感じたのと、「俺が死んでも必ず続けてくれよ」の声で出席していましたが、時の流れで止むを得ず終結しました。

昨年の最後の題目講の出席は5軒になり200年余りに終止符をうちました。私自身はまだまだ続けたいのですが。

（東雪 宮田 数江）

東雪谷に移り住んで

東雪谷に移り住んではや8年が過ぎました。以前は蒲田に住んでいたこともあり、その閑静で治安の良い環境のためか夜も安心して眠れ感謝しております。

こちらに住むようになって、何といってもありがたいことは、希望ヶ丘商店街のイベントなどで皆様によるおいしい食べ物や、歌や踊り、警察署員の方々や消防署員の方々とのふれあいがあり、小さかった息子が体験として心に残ったものは大きかったのではないかと考えています。

雪谷小、中学校横の呑川沿いに咲く桜も毎年楽しませて頂いております。こどもとある夏の夜のことで、東調布公園に行き、懐中電灯を点け、穴がたくさんあいた地面のすぐ近くの木を観るとそこには、いるわいるわ、脱皮中のせみや、脱皮を終え夜明けを待ってまさに飛びたんとするその姿を見て親子共々新たに感動致しました。私は医療の仕事に携わっており、患者さんから「どちらにお住まいですか」と聞かれたときに雪谷ですと言うと、

「雪谷にはいい商店街があって静かで住みやすい所ですよ。」と言われます。

「住みよい街雪谷」雪谷地区に住まわれる皆様のもすますのご発展をお祈り申し上げます。

（希望ヶ丘 小幡 貞二）



美しい環境づくり⑮

私は環境という言葉を聞くと、身近なゴミについてすぐに考えてしまいます。

ゴミの出し方は一般的には標示板に出ていますが、実際はとても悪く、毎回腹がたってなりません。生ゴミの日は、夜中に出す人、朝早く出す人、分別せずに出す人、道路向こうから持って来てそこに置いていく人、カラスネットが置いてあるにもかかわらず、ネットを掛けない人。ビニール袋に入れて出してる為にカラスがつっついて、中身が散らばっている事、歩道いっぱいにはゴミが出ていると、人が通ることが出来ず車道を通ったりして危険です。

以前は、ポリバケツに入れて出していたときもありました。そのときは、カラスが散らかす事はなかった様に思います。不燃物ゴミの日もビニール袋の中には食べ残しパックや、パックに付いた食物がカラスのエサになってしまいます。

ゴミは現代生活の上では必要不可欠な課題のように思われまです。ですから一人一人がもっと気を配って、他に人の迷惑にならないように、心掛けませんか。少しでも再生ゴミとして出し、地球環境を良くすることを考えることが、これからの私たちの大切なことと思えます。

（石川台 田口 朝子）



大森第十中学校で総合防災訓練

今年度、西センター内での総合防災訓練は、大森第十中学校で行われることになりました。大森十中は、上池上自治会の学校避難所として指定されております。当日には、避難者誘導、避難所の立ち上げ、炊き出しなどの訓練を予定しております。どうぞ、ご見学にいらしてください。

日時 9月1日（木） 午前10時30分～正午
場所 大森第十中学校

自治会リレー随筆

“東京”をもっと楽しもう

海外旅行経験ゼロ、国内も北は岩手、南は沖縄しか体験のない私のささやかな楽しみは、友人との“東京をもっと知りたい、かつウォーキングもしたい旅”である。

雑誌やテレビの情報から、行きたいスポットを決め、友人とパソコンからアクセスして近辺地図を引き出し、徒歩や電車で目的地に到達し、散策しながら地図上の点と線を実際に歩いて繋げ、街の雰囲気や存分に味わいながら、名店・名物・各施設を発見し、歓喜と驚嘆の中で2人がにわか評論家となる。これぞ！と思う品を買うのも女性ならではの愉しみである。

目当ての美術展が前日で終了して落胆の旅の1日だったり、ある美術館では自分の服装からか、造型家？と問われたり、話に夢中で駅を乗り過ごしたりと珍道中でもある。

訪れたのは奥多摩・自由が丘・代官山・御殿山・谷中・白金・蔵前・目黒川沿い・四谷などで、東京のまだほんの一部であるが・・・

トレンド感は溢れているが、無機質で風の強いビル街よりも、曲がりくねった道沿いに広がる懐かしい空気が漂う町の方が興味深い。いずれも地図では読み取れない想像していたものとは違った町の姿を新発見、体得でき、私としては、東京も観光地としてなりたち、まだまだ見るべき所が多い。

自分の足で歩ける限り、この旅を楽しみ、東京を知り尽くしたいものである。

（笹丸 小林 洋子）



俳句

特急の緑の風に挙手の礼

風連れて色鉛筆の避暑便り

（笹丸 垂井 道夫）

短歌

浜ひる顔咲ききそう砂浜に

子らの姿や戯れ輝く

道交法改正以後の二人乗り

ほ々えましきは親子ライダー

（小池 高橋 尚子）

いつせいに咲き競いたるとりどりの
花をめでつつ友と語りぬ

（小池 高橋 久子）

洗足池ホタル鑑賞会

日時 7月23日（土） 午後7時30分～午後9時

場所 洗足池水生植物園ハツ橋

*小雨決行、悪天候のときは24日（日）に順延

この情報誌は古紙100%の用紙を使用しています。